

日本・パプアニューギニア協会会報

ごらくちょう

Bird of Paradise

2016
No.
50
31 Jan

発行 NPO法人 日本・パプアニューギニア協会 編集 NPO法人 日本・パプアニューギニア協会広報部 発行日 平成28年1月31日



協会メンバーのみなさま 平成28年度 新年明けまして おめでとうございます



山下 勝男 (当協会会長)

日本パプアニューギニア協会法人会員・個人会員の皆様、明けましておめでとうございます。この会報が皆様のお手元に届く頃には、あるいは厳しい寒波が到来しているかもしれませんが、この原稿を書いている年初のこの時期は、幸いにも例年になく暖かく穏やかな天候に恵まれています。皆様にはご健勝の新年をお迎えのことと存じます。

昨年中は、当協会にとりましても、また、日本とPNG関係にとりましても、多くの行事に恵まれ、大変意義深い年でありました。まずPNG独立40年、日PNG外交関係樹立40年に関連した記念行事が数多く企画され、それらが成功裏に開催されたことは、一昨年7月の安倍総理大臣のPNG訪問を契機として、両国間友好関係の盛り上がりが一層の強く感じられた年でした。主要なものは、5月の「第7回島サミット」の福島での開催、9月の独立40年を祝賀するPNG大使館主催の盛大なレセプション、10月のオニール首相の公式訪問、11月の大月での独立40年記念親善ゴルフ大会がありました。これら行事の成功のために、当協会としても、外務省、PNG大使館、議員連盟とともに、多少なりとも貢献できたのではと自負しております。これもひとえに会員の皆様のボランティア精神によるご協力の賜であります。

昨年は当協会の会員個人にとってもめでたいことが重なりました。村田吉隆名誉会長が、長年の議員活動

等での社会貢献により「旭日大綬章」の勲章を、伊藤明德ポートモレスビー支部長が、学校教育での遠隔教育普及活動への貢献で、PNG政府より、外国人として初めて勲章「勲功公共サービス勲章」授与されました。また多くの会員の皆様はご存じとは思いますが、昨年10月のオニール首相公式訪問歓迎のPNG大使館、友好議員連盟、当協会共催のレセプションには、満100歳を迎えられた当協会顧問の堀江正夫さん、また、満96歳を迎えられた同じく名誉顧問の大河原良雄さんが、お元気な姿でご出席され、多くの出席者より祝福を受けられました。皆様のご貢献は、協会にとっても名誉なことで、改めまして協会会員の皆様とともに、心からお祝い申し上げたいと思います。今後とも、お元気で益々のご活躍を祈っています。

本年は、懸案であったニューギニア航空の成田への週2便の運航が再開されることが発表されています。観光関係の法人にとっても、旅行を計画しておられる個人会員の方にとっても一番の嬉しいニュースです。航空便の増加によって、両国間の人、物の交流がさらにスムーズになり、関係の緊密化が一層進展することが期待されます。

協会設立の原点に立ち返り、日本とPNGとの友好親善関係の増進と会員皆様相互の親睦のために、本年も引き続き精進することを誓って、新年のご挨拶いたします。

村田名誉会長、旭日大綬章を受章

川口 正義 (当協会理事)

日本・パプアニューギニア協会名誉会長（元国家公安委員長）の村田吉隆氏が、秋の叙勲で旭日大綬章を受章されました。11月5日皇居で親授式が行われ、天皇陛下より勲章が授与されました。

村田氏は京都大学法学部をご卒業後、大蔵省に入省。同省在職中にフランスのグルノーブル大学大学院やフランス国立行政府（ENA）に留学された後、平成2年、旧岡山県第2区から衆議院議員に当選されました。小泉内閣で、国家公安委員会委員長、内閣府特命相（防災・有事法制）を務められました。平成24年に政界を引退されるまで7期連続で当選、その22年に亘る職務の間に、平成17年には国連世界防災会議の議長を務められるなど、国際的な活動にも数多く携われてこられました。

パプアニューギニアとの関係では、議員当時日本パプアニューギニア友好議員連盟の会長として、両国間の友好を進められたことです。また平成22年の成田 - ポートモレスビー週二便就航にも多大なる尽力をされ、その初便でパプアニューギニアを訪問されています。議員引退の後、日本・パプアニューギニア協会の顧問を経て、平成26年より当会名誉会長（理事）に就任されています。

パプアニューギニアとの御縁は「蝶」。蝶の蒐集がご趣味の村田氏は、世界最大の蝶トリバネアゲハを始め多くの蝶が棲息するパプアニューギニアの自然にご興味を持たれたとか。



昨年12月17日に関係者でささやかな受章のお祝いの会をさせていただきましたが、その際、当会会員で蝶研究者の古谷氏のコレクションからトリバネアゲハが贈呈されました。濃い青色に輝くブーゲンビル島産の他に同じ青色種でもミシマ島産の計2頭です。ミシマ島の青色種は生息分布が限られた貴重種だそうです。

今後とも日本・パプアニューギニアの友好の促進に更なるお力添えをいただければ幸いです。おめでとうございます。



勲功公共サービス勲章のご報告

伊藤 明德（当協会ポートモレスビー支部長）

日本 PNG 協会ポートモレスビー事務所の伊藤明德です。通常は、ポートモレスビーで JICA の遠隔教育の技術協力プロジェクトの総括業務をしています。

今日は、光栄にも PNG 政府から受勲しました勲功公共サービス勲章 (Meritorious Public Service Medal :MPS) のご報告をさせていただきます。PNG の記念すべき 40 周年の独立記念日の翌日の 2015 年 9 月 17 日、新聞に「The Order of Papua New Guinea (PNG 勲章)」の見出しで PNG 政府 40 周年独立記念勲章授与リストが発表され、私の名前がパプアニューギニア人と一緒に記載してありました。

1990 年に青年海外協力隊として PNG に赴任して以来、私は、幸運にも現在まで継続して PNG 教育省で教育の質の向上のために JICA の業務をしてきました。

2015 年は、日本と PNG 国交樹立 40 周年、私の PNG 赴任 25 周年に、このような栄誉ある勲章を頂けるとはなんと名誉なことでしょう。勲章式は、真っ青な空の広がる 2015 年 11 月 12 日、ポートモレスビー港を見下ろす総督公邸で開催されました。安部首相がポートモレスビー到着直後に表敬訪問をした場所です。会場には約 30 名の受勲者が集まり、総督職を務める Theodore Zurenuoc 氏から勲章を頂きました。嬉しいことにも日本 PNG 協会の友人のニューギニア航空の Marco McConnell さんも一緒に受勲しました。

今回の受勲となったのは、今まで暖かい支援と指導を続けてくれた大使、日本 PNG 協会、JICA の皆様、友人のおかげです。これからも、PNG のため、PNG と日本の架け橋のために努力して行きますので、引き続きご指導宜しくお願い致します。



日本・パプアニューギニア協会 支部だより

関西支部だより

及川 正博（当協会理事）

2014 年 4 月に日本 PNG 協会理事の唐沢敬氏から PNG 関係の研究会の席上で関西支部立ち上げの発議がありました。

2014 年 7 月の安倍首相の PNG 訪問、2015 年 5 月 8 日の日パ国交樹立 40 周年目の、前首相ソマレ氏へ日本政府から旭日大綬章の授与など、友好関係がますます親密の度を増している状況に鑑み、東京本部の活動を支える意味もあって関西支部が設立された。実質的な活動は 2015 年 9 月から始まり、初代支部長に協会理事の及川正博が任命された。会員は現在 5 名である。

運営に関して、①支部会員は原則として本部会員であること②会費は特別に徴収しない③原則として隔月に研究会や懇話会などを行う、ことが確認された。これまで 2 回の研究会①及川正博「PNG におけるバタフライ・ファームの課題と展望—生物多様性と絶滅危惧種保護の観点から—」2015 年 9 月 27 日、②竹下賢「PNG の環境保護区における地場産業の法的規制と手続き」2015 年 11 月 15 日) を開催した。今回、PM で住宅建設に携わる未来開発の威徳井氏も出席された。

中部支部だより

花井 錬太郎（当協会理事）

支部結成のため、本年 3 月頃に中部地区在住の会員 10 名にて準備会を発足するように進めております。会の組織づくりのため、遺族会や PNG 関係者の情報を集めて連絡をし、同時に事務局の選定をしておりますが、未だ決定しておりません。今後唐沢副会長・及川先生を含めた関西支部のご協力を得て、中部地区の大学にもご支援を頂きたいと考えております。まずは 2 月 7 日の関西支部の研究会に出席したいと思います。

先の大戦では中部地区より 10 万人以上の方々々が京都に集結し、その多くの方々々が南方方面にてお亡くなりになられたと遺族会の名簿にございます。是非ともご遺族より会員を募りたいと考えております。

また、戦後の PNG の発展や最近の LNG 関連において、中部地区からのビジネス進出が大いに寄与していることに大変感慨を持ちます。

この機会に中部地区のデパート等で PNG フェア等の開催を実現したいと考えますので、会員の皆様と関係者のご協力をお願い申し上げます。

パプアニューギニア独立40周年記念祝賀ゴルフ大会開催



大会委員長 中村 弘（当協会副会長）

2015年11月6日山梨県の大月カントリー倶楽部において、標記の祝賀ゴルフ大会がパプアニューギニア大使館・日本パプアニューギニア友好議員連盟・当協会の三者の共催により日本国外務省、PNG 外務省の後援を得て開催されました。

ゴルフ大会の開催は当協会にとって初めての経験でしたので参加者がどれ程集まるか不安でしたが、お蔭様で当初募集の48名を遥かに超える69名（内女性8名）の参加を頂き、予想以上に盛大な大会になりました。ご参加の皆様へ改めて御礼申し上げます。またパプアニューギニア・ドウサヴァ大使を筆頭に、外国の在日大使館からはケニア・マイナ大使、ブルネイダルサラーム・アーマッド大使、ザンビア・シニンザ公使にご参加を頂きました。

当日は幸運にもこの時期には珍しいほど温暖無風の好天に恵まれ、終日雲一つない青空に映える霊峰富士が望まれ、快適なプレーを楽しんで頂けたと思います。プレー

終了後の表彰式と懇親パーティーでは石井大月市長にご挨拶を頂き、パーティーのみに御参加の方に加え81名の大勢の方が会食と歓談を通して親睦が図られたことと思います。尚、今回友好議員連盟の議員の皆様、御参加の有志の皆様、大月CC様他多くの方々から沢山の賞品のご協力を頂きましたこと、心から御礼申し上げます。お蔭様でご参加の皆様には全員漏れなく賞品が行き渡り大変喜んで頂いたものと思います。

今回の大会を通して、皆様と共にパプアニューギニアの独立40周年をお祝い出来ましたことを大変嬉しく思っております。本当に有難うございました。また本大会開催にはドウサヴァ大使を初め、大使館の皆様には大変ご支援を頂きましたこと厚く御礼申し上げます。今回の共同作業を通して、より一層大使館と協会の協力関係が促進されたことも嬉しく思っております。本年もまた両国間の理解と親善が大いに促進されますことを祈念致しております。



国民レベルの交流と相互理解の増進を目指して

松本 盛雄（在パプアニューギニア特命全権大使）

明けましておめでとうございます。

オニール PNG 首相は新年メッセージの中で、石油化学・マグロ加工産業といった国内産業育成および治安状況改善を重要課題に掲げ、そのための具体的措置をとる意向を明らかにしました。また、「国民が最も重要な資源」との観点から保健医療・学校教育の充実による人材開発の重要性についても強調しました。

日本はこれまでこういった分野で PNG に対して積極的な貢献を行ってきました。このことは昨年、国交樹立 40 周年に当たり活発に行われた日 PNG 首脳交流でも確認され、協力推進の具体的な内容も合意されました。

私は両国間の協力推進には国民レベルの交流と相互理解の増進が不可欠であると考えています。PNG の人々に日本のよさを理解してもらうために、在 PNG 大使館が企画・実施している文化事業では「ひな祭り」「七夕」といった季節ごとの年中行事関連イベント、日本の観光の魅力をアピールする「観光セミナー」

などがあります。日本留学経験者の集まりである「日本留学生協会（JARA）」はこれらイベントの企画運営に大いに貢献してくれています。昨年、彼らが中心になり実施した「ジャパン・デー・フェスティバル」では、日本からお招きした柔道高段者らによる模範演技に飛び入りした地元の子供達が大きな柔道家を投げ飛ばし大喝采を浴びました。国際交流基金や NHK との協力で、今年はじめから地元テレビ局で「カーネーション」などのテレビドラマの放映が始まりました。このニュースは地元言語（ピジン語）で発行されているネット新聞にも取り上げられ注目されています。

日本大使館としては「国民レベルの交流と相互理解の増進」を今年のテーマのひとつとし、そのための企画を充実させていく考えです。これを通じ PNG の人々が日本人をより身近に感じ、相互理解が深まっていくことを望みます。



大使公邸で行った雛祭り



ジャパン・デー：日本人柔道家を投げる PNG 児童



ジャパン・デー：ロックソーラン踊り

駐日 PNG 大使館情報

ドゥサバパプアニューギニア大使 父の思い出を胸に故田中兼五郎氏の墓にお参りする

堀江 正夫（当協会顧問）

1月7日ドゥサバ大使は川崎市麻生区の春秋苑に眠る故人のお墓に未亡人田中はる夫人（96歳）と三女まり子さんに迎えられ、堀江東部ニューギニア戦友遺族会会長の案内の下に親しくお参りし、父から聞いた思い出を語り、その冥福をお祈りされた。

故田中兼五郎氏は、昭和17年軍司令部発足以来終戦まで3年間作戦参謀として安達軍司令官を補佐し、その武功抜群により感状を授与され、戦後も現地で戦犯に問われた軍司令官に随行してラバウルに行き、その自決までお仕えされた元陸軍中佐である。

帰国後戦友会と日本パプアニューギニア友好協会の設立及び

その運営の中心となり責任者となって、慰霊、遺骨収集、ニューギニアとの友好親善及び支援のために後半生をささげ、平成2年79歳でこの世を去られた。

ドゥサバ大使の父上とのご縁は、軍司令部がウエワク南方山麓のヌンボクにあった一年間近傍のヤンゴールの住人であった大使父上との間の親交であり、大使は少年時代から父上から田中参謀の話をよく聞かされたとの思い出から、この度の墓参となったのである。戦後70年以上を経た今日両国間に花開いた友好親善のしるしであり、美談と思い、敢えてこのことを皆様にご紹介した次第である。



第1回 PNGの思い出

パプアニューギニアでライブ



影山 ヒロノブ (アニメ歌手・当協会会員)

2010年3月末、初めてパプアニューギニアを旅しました。ニューギニア航空が週二便に増便されることを記念して日本・パプアニューギニア協会が企画されたツアーでした。かねてから知人がパプアニューギニアをよく訪れていた関係で、「いつかは行ってみたい」と思っていました。その知人が誘ってくれ、ついにチャンスがやってきた訳です。JAM Projectの遠藤正明も参加し総勢6名のメンバーで繰り出すことになりました。

いくつかのコースがあったようですが、僕たちは「ラバウルコース」に参加しました。ラバウルには太平洋戦争時代の日本軍の戦跡が数多くあり、戦車や飛行機の残骸も残されていました。日本人なら誰でもなじみの有る山本五十六関連の壕や空港跡地、ジャングルに残された一式陸攻の残骸などは、70年を経た今でもかつてその場所が激しい戦争の最前線だったということをリアルに伝えてくれました。そして何よりも印象的だったのが、ラバウル空港跡地で遊ぶ子供達が日本からの観光客を見つけるとそばに寄って来て「さらばラバウルよ、また来るまでは」で始まる有名な軍歌を無邪気に、なおかつめっちゃくちゃな歌詞で歌ってくれた事です。

旅の最後に訪れたポートモレスビーのミュージアムで見た「死の行軍ココダトレイル」に関する展示物とともに、日本人として知っておいた方が良さ事としっかり向き合えたこと、今回パプアニューギニアの旅での貴重な体験だったと思います。

また小舟に乗ってイルカウォッチングをしたり、無人島で泳いだりと開放的な熱帯を満喫し、また首都ポートモレスビーでは日本大使館主催の公式パーティーにも招待していただいたり思い出の多い旅となりましたが、特に忘れられないのはオイスカの研修センターでのイベントでした。

ラバウルの郊外にある当センターには、国中から100名程の農業研修生が集まっています。そしてセンターとそれらの研修生が訪問団に歓迎の会を催してくれたのです。

まずお祈りや来賓、主催者の挨拶がありましたがその後始まったのは、研修生による「シンシン」の披露です。黒光りする肌に鮮やかな羽飾りや貝飾りをした人たちが出身地方それぞれの伝統に従って激しく唄って踊り出したのです。強烈なリズムとワイルドでエネルギッシュなパワーには圧倒されてしまいました。7組のシンシンが終わった後で、返礼として僕達の出番となりました。今まで世界中の国々で唄っていますが、パプアニューギニアは初めてです。「世界で活躍する有名なアニメシンガー」と司会の方から紹介していただきましたが、僕も改めて唄の前に英語でスピーチをしました。

しかしどうもノリが良くない。いつもと違う。アニメを見ていないのではないかな？

「ドゥ・ユー・ノー・ジャパニーズカトウーン(日本のマンガ知ってますか)?」「シーン・・・」「ドゥ・ユー・ノー・ドラえもん?」「シーン・・・」「完全アウェイ・・・」(遠藤)テレビが普及していないようです。これは大変と思いましたが、とにかく持ち歌のドラゴンボールZの主題歌「CHA-LA HEAD-CHA-LA(チャラヘッチャラ)」を唄ってみることにしました。すると唄い出すなりいきなり観客から拍手喝さいが起こり、先程のシンシンダンサーが急遽「乱入」してきて踊り始めました。更に二人が合流し、素敵な共演となりました。完全にノリノリの状態でおかげさまで会場全体も熱狂の内に終わることが出来ました。終了後は「アンコール」の連呼そして握手、記念撮影大会。観客の中には日本人ボランティア(JICA派遣)の若者も20名近くいらっしゃって喜んでいただきました。



すべてのことに共通することだと思いますが、見るのと聞くのとでは大違いです。その目で真実を見て、その手で触れて、有る時は勇気を持ってそれを口に入れ食べる（笑）。これは僕の持論ですが、体験したもののみが真実を理解し発信できるのではないのでしょうか。

今回のパプアニューギニアへの旅は、成田空港のロビーから、最後に日本に帰り着くまでたくさんのものを僕に伝えてくれました。そしてそれは、「No Border」を掲げる僕達日本のアニメ系ミュージシャンにとって、最高の実体験になりました。

旅でお世話になった OISCA 始め、現地のみなさん、そして僕らを遠く離れたこの素晴らしい国に導いてくれた日本 PNG 協会の川口さん、心から感謝します。ありがとう。



プロフィール

1961年2月18日大阪市生まれ。ロックシンガーでアニソン歌手の一人者。アニソンユニット JAM Project のリーダーでもあり、世界中で支持を得ている。作詞、作曲、編曲、プロデュースも行う。77年、ロックバンド「レイジー」でプロデビュー。85年「電撃戦隊チェンジマン」主題歌でアニメ・特撮ソングデビュー。代表曲に「ドラゴンボール Z」主題歌「CHA-LA HEAD-CHA-LA」や「聖闘士星矢」主題歌「聖闘士神話～ソルジャー・ドリーム～」、「鳥人戦隊ジェットマン」など。「南海少年パプワくん」の挿入歌「Friends～いつかどこかで」という曲もある。今までにアニソン、オリジナル、JAM Project 含め 1000 曲を超えるレコーディングを行っている。

なお共演の遠藤正明氏は 1967 年 8 月 28 日宮城県石巻市生まれのアニメシンガー。「爆竜戦隊アバレンジャー」のオープニングテーマは、このジャンルの主題歌の中では当時売り上げ第 1 位となる。影山ヒロノブ氏とは 1997 年にユニット「鋼鉄兄弟」を結成して以来共演も多く、JAM PROJECT の立ち上げメンバー。



株式会社パプアニューギニア海産

〒567-0853 大阪府茨木市宮島 1-2-1-A-909
TEL:072-634-9909 FAX:072-634-9910
URL:hppt://pngebi.greenwebs.net/

ブログ更新中

<http://pngebi.greenwebs.net/>

パプアニューギニア産天然えび一筋 30 年

本当にいろいろな事がありました。

東日本大震災による津波被害で宮城県石巻市にあった工場は全壊し、現在は大阪府で復興の真っ最中です。

被災による二重負債に向き合いながらも、やはり私達はパプアニューギニア一筋を貫き、これからも共に頑張っていきます。

今年は弊社にとっては生き残れるか勝負の年です。

安全安心で美味しいパプアニューギニア産天然えびをこれからも販売継続できるよう、ご愛顧・ご支援よろしくお願い致します。



堀口エンジニアリング(株)は、自動車、建設機械、船舶、航空機、産業機械の各市場において、エンジン及び周辺機器や各種機械の製造・修理・再生を手がける会社です。創業以来 60 有余年、独自の技術を駆使したモノづくりと修理を通じて価値の創造と再生を行い、お客様からの信頼を獲得し、今日まで順調に成長を遂げてきました。近年では、航空機用の整備器材や化学プラントや産業機械、生産設備関係の分野に注力しています。

パプアニューギニアとの関わりは、ニューブリテン島オープンベイで植林事業を行っている晃和木材様（現住友林業様）が、現地で建設機械の修理を行う会社が無く、困っているとお話を建設機械のメーカー経由でいただき、2011年2月から約1ヶ月間、当社のスタッフ3名が現地のOBT社に行き、建設機械の主要構成部品の修理・再生を行ったことがきっかけでした。

現地の建設機械は、定期的なメンテナンスが全く実施されないまま使用し続けているため、摩耗・損傷の程度が酷い上に作業環境も悪く、修理に時間も費やしましたが、溶接肉盛りや日本から持込んだボーリングマシンを使って無事完成させることができ大変喜ばれました。



OBT 社での記念樹



近くの小学校を訪問した際、日本の歌で歓迎を受ける

翌年も同じような仕事の依頼を受け工事を実施し、今では現地工事以外でも建設用のエンジンや部品を当社の成田工場に送っていただき、修理・再生を行っています。

当社の強みは、今回の工事のように可搬式ボーリングマシンを現地に持って行きその場で加工できることです。建設機械に限らず特に造船所のドックで船舶のプロペラ軸ボーリング加工などが可能なので重宝がられています。

このように、ほかではできない技能・技術によって競争に打ち勝ってきました。この技術を継承し、常にリードするために、人材の育成と技能・技術を磨き上げ、新たな分野に挑戦し続け、お客様の価値の創造に寄与していきたいと考えています。



建設機械のフレームの一部を
ラインボーリングにて
機械加工中

事務局からのお知らせ

記念すべき第50号をお届けすることができ、事務局、また編集担当は本当に嬉しく思っております。

「ごくらくちょう」の第1号は平成15年10月31日発行でした。12年にわたり皆様にご愛読いただき誠に光栄です。事務局、編集

の担当より御礼を申し上げます。今後も多くの情報を発信していくよう努めて参りますので、皆様からの御意見、情報を引き続きお願いいたします。

記念の第50号では、紙面を倍増して1. 大使館情報 2. パプアニューギニアの思い出コーナー 3. 支部だよりをお届けいたしました。また、法人会員のご紹介とは別

に、今後広告スペースを展開してまいります。本号では、「株式会社パプアニューギニア海産」様をご案内いたしました。

表題部分のデザインも一新し、八坂圭氏のご厚意により、氏の作品をベースにさせていただきます。

100号を目指して頑張っておりますので、引き続きご愛読をお願いいたします。

日本・パプアニューギニア協会 会員募集

本協会は、日本とパプアニューギニアが友好関係を促進し相互理解を深めることを目的とし、文化、芸術、スポーツ、観光等様々な活動を行っております。どうぞ本協会の活動をご理解下さり、ご協力の程をお願い申し上げます。

会員数 ◆ 法人会員: 33社 ◆ 個人会員: 162名 (2016年1月31日現在)

お問い合わせ先 日本・パプアニューギニア協会 事務局 〒102-0074 東京都千代田区九段南2-2-1 エース九段ビル8階 日本ビジネスライン(株)内
Tel: 03-5216-3555 Fax: 03-5216-3556 E-mail: info@jpng.or.jp URL: http://www.jpng.or.jp/

本協会では随時会員を募集しております。お知り合いの方にぜひお声をかけて下さい。

申し込み方法 郵便局の振込取扱票にてお申し込みください。

年会費 個人会員5,000円 法人会員50,000円 学生1,000円 PNG人1,000円

会費受付 郵便振替口座をご利用ください。

口座番号 00140-2-277582

加入者名 トクヒ ニホン パプアニューギニアキョウカイ